

40号

題字 岩津小
5年 古川隆博

かいほつ



岡崎市現職教育委員会 特殊教育部会

平成11年3月1日発行



今、子供たちに
求められていること

矢作北中学校校長

柴田 隆夫

「私の会社に来てほしいのは次の二つのことができる人です。」

・ 明るいあいさつがしつかりできること

・ 上司の言われることを素直に聞くことができること

皆さんの先輩のAさんは、とても明るく大きな声で、しつかりあいさつができるので、この会社の人気者になっていますよ。」

二月十日に行われた事業所見学会の折り、見学先のある事業主さんが生徒たちにこのように話してくださいました。

今ほどの事業主さんも人物を重要視してみえるのです。

また、その日の午後、『今、子供に何が必要か』と題して、愛知県障害者職業相談員の鳥羽輝子先生を講師に迎え、保護者対象の講演会を行いました。そのお話の中で、

日常生活でぜひ身につけさせてほしいこととして、

・ あいさつ、返事がしつかりできるようにすること

・ 自分の気持ちをはつきり相手に伝えられること

などを挙げられました。

あいさつは心の窓です。

いつでも、どこでも、だれとでも、気持ちを込めて自然にあいさつができるようにしたいものです。そのためには、子どもたちの周りにいる大人、教師や親があいさつの輪を作り、それを広げていくとよいと思います。目を見てあいさつし合っていれば、心も通い合い、笑顔が生まれ、明るい声で自然にあいさつができるようになると思うのです。

特殊学級進路指導委員会

事業所見学会

職場見学講演ポウリング大会

二月十日、中学校特殊学級進路指導委員会主催の『事業所見学会』が、生徒・保護者・教師百十六名の参加のもとで行われました。

今回は、事業所の見学を八か所に広げました。また、九鬼憲子様のご厚意により、ポウリング大会を実施し、余暇の楽しみ方を学ぶ機会を持つことができました。

午前中の事業所見学会では、卒業生が働いている事業所を見学でき、自分達の先輩が働いている姿を見て、働くことを身近に感じた生徒も多くいたと思います。

午後は、保護者は講演、生徒はポウリング大会に参加しました。講演は『今、子どもたちに何が必要か』と題して、障害者職業相談員の鳥羽輝子様にお話いただきました。相談員として会社を訪問されている経験から、生徒にとって何が必要かを具体的に話してくださいました。また、生徒たちは、ポウリングを思う存分楽しんでいました。

事業所を見学して

六ツ美北中 蜂須賀 隆

今回の事業所見学では、先輩のいる事業所を見学するという趣旨で少人数で実施された。

見学先は六ツ美にある「カネ美食品」。六ツ美中学の女子卒業生がこの会社で働いているので、訪問することとなった。

六ツ美中学と六ツ美北中学校、合計十三人の少数精鋭が参加し、実施された。

最初に「三河地区のサークルKへ、お弁当・おにぎり類を配給している」という係の人からの説明があった。その後に食品製造見学となるのだが、安全・清潔をモットーとする会社だけに、さっそく、マスク・帽子・エプロンを身につけ出発した。ところが、簡易マスクがはめられず困っている子を発見する。また、教室で「カネ食品」の事前学習をし、質問内容を「しおり」に書かせておいたのだが、さっそく質問しないのである。実際に行動すると様々な生徒の実態が分かり、今後の指導の参考にと考えた。

時間の制約があったのが残念であったが、「カネ食品」さんには本当に感謝している。



保護者の声

講演会を聞いて

山本 三代子

「今、子どもに何が必要なのか」と題した鳥羽輝子様のお話を聞き、その中でとても心に残った言葉があります。『親はとかく、子どもを見てできないと思ひ、つい手助けをしてやります。でもそれはできないのではなく、やらせないからなのです。』

この言葉で自分を振り返り、反省させられました。親がやらなければいけないことは、手助けではなく、子どもに任せて見守ること。そうすれば、歩みは遅くとも必ず子どもは自分の力でできるようになると思います。今後、このように接していきたいと思ひます。

この子たちのためにできることは何なのだろう

矢北小 常松 紀子

四月、初めての学校での初めての障害児学級担任の生活が始まりました。

私が担任することになった子供たちは、情緒障害学級のY君とK君でした。Y君は二年生で良く動き回る男の子で、まだ話せません。K君は、三年生で、この四月に通常の学級から本校に転校してきた男の子。言葉はあるのですが、会話は不得手です。

ちに添えるよう、一緒に校庭を歩き回ったこともありました。逆に、問答無用と抱きかかえて移動したこともありました。言葉では十分伝えられないため、不安にさせたり、いら立たせたりしたことでしよう。

この子たちに何をすればいいのか、何ができるのかといつも悩んでばかりです。主任の本多先生に教えていただいたり、本を読んだりしてなんとか一年が過ぎたという感じです。Y君もK君も私が担任だということが分かってきて、機嫌のよい時は近づいて来てニッコリと笑顔を見せてくれます。

これからも悩みながらこの子たちのためにできることは何なのかを考えていきたいです。

始業式の日が、この子たちとの出会いの日でした。二人ともお母さんがついてくださり、ちょっと安心していただけですが、最初の日から、姿が見えなくなったり、新しいことだらけの環境に不安定になつて落ち着けなかつたりの二人でした。ひやりどきりの連続で、この先どうなることかと、正直、お母さんたちより不安がいつぱいでした。あれからもうすぐ一年が過ぎようとしています。いろいろなことがありました。二人の気持



生かそう 相談窓口の活用

子育て支援センター 保母主任

杉田喜美子

とに相談電話をかけてみえます。その伝えかたにもさまざまあって、率直に自分の疑問とする事を伝える人もあれば、否定しながらも肯定的な伝えかたをされる人もあります。それだけ傷つき悩み、不安感をつのらせての相談だと心して受けとめるようにしています。が難しさを感じています。

子育て支援センターでは、子どもを生み育てやすい環境づくりの一環として、平成五年七月一日より子育て支援事業を実施しています。主に、在宅子育て家庭の育児不安に悩む母親や家族からの電話相談をうけたり、育児サークル支援、子育て情報紙の発行などをその内容としています。

子どもを持つ母親の悩みと感ずる心は、さまざまですが、ことに子どもの発達が自分として、どうも納得がいかなかったり、または隣人から「あんたんとこの子、まんだしやべらん、ちよつと遅すぎるよ」などと言われたりするところから始まるようです。

自分の子と同じような年齢の子と比較したり、関係書物を調べたりしながら悩む心を解決していくときれますが、それでも自分に納得のいく答えがみつからない場合は、自分の収集した情報をも

くに就学の時がきます。その開覧になってから慌てても、なかなか良い結果が得られないものです。特に目の前の子どもさんが心配です。この子に問題を感じたら、適切な相談窓口を利用しながら、子どもの正しい精神発達・障害を支援していくてほしいと思います。

さて、相談電話の聞き取りの中で仮に発育に遅れがあるとして、その事が個人差の範囲を超えているとします。そんな場合は、専門の窓口を紹介するのですが、ここで大きく問題になるのが相談者の親としての心です。

こうの子は、まだ三歳だからそんな所（心理判定や診断をする窓口）にいかなくても、もう少し様子を見て、それからにしたい」と、助言はなかなか受け入れられませんが。

相談者の傷つき悩む心を受けとめながらも適切な窓口紹介によって、問題解決への糸口をそのつど共に模索しながら勧めたいと願いますが、障害児としての診断や告知を受けたくないという親の心が問題を複雑にしながら時間だけが過ぎてゆくような気がします。

相談を受けた時が三歳でも、す



育児サークルリーダー会議の風景

子どもさんの障害の如何にかかわらず就学先の事でしたら、「そよかせ相談室」をご利用ください。相談員が相談者の心を十分汲み取ったうえで、子どもさんの将来を見据え、総合的な視野で就学について共に考えてくれます。その子を取り巻く子育て・教育支援システムを上手に活用し、よりよい発達と生活の場を子どもさんに保障する事に力を注ぎましょう。

がんばってます11

生け花のおけいこ

岩瀬直佳さん

連尺小学校六年生の時、担任の内藤先生から、「二生続けられる趣味をもつといいよ。」

と勧められて、私は友達のみちやんと一緒に生け花を始めました。もう十五年くらい習っています。

毎週金曜日、お父さんの車で左右田先生のところへ通ってもらいます。私が全然おけいこを休まないのにお母さんも感心しています。

お花のおけいこは、自分でいろいろ生けることができて楽しいです。私は黄色いききが好きです。お花は玄關にかざります。



学級スナップ

にわとり大好き

上地小 けやき学級

開校十六年目の上地小に、本年度新しい学級「けやき学級」が開設されました。一年生二名、三年生一名の全てが男子の学級です。

上地小では、二十六羽のにわとりが放し飼いされています。学級の子たちは、そのにわとりが大好きです。先日、教室の前のプラントーに、卵が産んであるのをみつけました。今は、毎日温めている様子をそつと見守りながら、新しい命の誕生をみんなで楽しみにしています。

にわとりを通して、心豊かに成長していきたいと思えます。



出会い 前向きに生きる

野村美渕

生き方

今、かぜが流行っている。ご多分に洩れず私も人並みにかぜをひいて寝込んでしまった。人並みと違ったが、何が人並みだろうか。

定年退職後、幼稚園々長、心の電話相談員をして、四月からはいわゆる無職で暇ができてきたので、ボランティアの手伝いをしたり、趣味を生かしていけ花を教えたり、編み物を楽しんだりしている。昨年十一月には妹の焼き物と「花と器」の姉妹展を催すなど、まわりの人に「イイ生き方をしてるね」と言われる。

われぼめで言うると、毎日明るく元気に過ごしているなあと思ひ、人並みに幸せである実感。この思いはどこから来たか。

出会い

二十年近く前、大門小学校に特

殊学級が設置され、担任となった私は学級の子どもと戸惑いながらも、楽しい学級づくりを考えて過ごした。それ以上にお母さん方の子どもに対する思いと生きる姿にどれだけの力を与えられたことか。勿論、職場や特殊教育の先生方に多くのことを教えられ、助けられたことは書くまでもない。

学級の五人の子どもは、知的に、情緒的に障害があるなど、多面に対応を要するた

め、私の浅学ではとても無理だ。やる気と情熱があればと格好をつけても、大変なことには変わりない。しかし、みんな素直で優しい子たちだ。怒ったり暴れたりするのは症状のひとつだ。



前向き
お母さん方は、なぜ障害のある子が生まれたかではなく、生まれたい子は元気に育つてほしいと願っているだけで、皆さん、前を向いてみえる。心ない親類などから「うちの血筋に障害者は居ない」

といびられ、悲しい思いを持ちつつも「この子も私も悪くない」と胸を張ってみえた。今東光師の座右の銘に「遊戯三昧」がある。遊んで遊んで遊ぶ心を楽しんでいるが、お母さん方は肩に力を入れずこの心を持っていて。子どもと長い道のりを行くには肩肘を張ってはいけません。真面目な動きがとれなくなる。真面目でも正直でも上に二文字つくとも駄目だ。大切なことはゆとりの遊び心を持つてい

やさしさをありがとう

広幡小 津田 佳美

友達

葵中 横井 吉英

小学校の先生、友達とはとてもやさしいから大好きです。いつもたずけてくれてありがとう。いつもやさしくしてくれてありがとう。楽しい思い出がいっぱいできたよ。

津田 まゆみ

六年間の成長
六年前の今頃、障害を持つた子が小学校の大きな集団の中でついでにいけるのか不安でしたがありませんでした。でも、この六年間で日々成長していく我が子を見ていて本当にびっくりしました。先生方、周りの方々、お友達のおかげだと感謝しています。四月からは中学生になりますが、以前のような不安はありません。マイペースで頑張りたいと思います。



卒業に向けて
横井 真由美

生まれて六か月後に脳性マヒと診断され、手足の訓練が毎日を通じて

お母さん方の背中中は優しく大きくて温かい。私ももたれたくなる。そんな背中を見て育つた子どもは、理屈なしにまつすぐについていく。K君のお母さんは「Kは今年は飛躍しそうです。(そんな心境)夢いっぱい的一年にしたいです」と手紙をくれた。私も夢描き、前向きにのんびり自然に暮らそう。



- ・特殊教育推進連盟表彰
- ・第十八回学級新聞コンクール
- 矢北中 三年 庵 正敏
- 中学校の部 美川中
- ・障害児童 生徒絵画展
- 特別賞・豊橋みなとライオンズクラブ賞
- 佳作 井田小 鈴木正臣
- 小学校の部 広幡小
- ・読書感想画コンクール
- 奨励賞
- 教育委員会賞
- 六北小 大河原裕子
- ― 東海日日新聞社主催 ―

- ・がまごおり絵手紙大賞
- こども大賞 六中小 太田圭輔

